

# 株式会社 ユタカ製作所

## 2022 年度環境経営レポート

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日



発行日 2023年5月1日

## 《目次》

1. 環境経営方針	P-3
2. 事業活動の規模	P-4
3. EA21 推進体制	P-5
4. 環境目標とその実績	P-6
5. 環境経営計画の取組みと評価	P-8
6. 社会貢献	P-13
7. 2023 年度の取組み内容	P-14
8. 環境関連法規制の遵守	P-15
9. 代表者による全体評価と見直しの結果	P-17



# 1. 環境経営方針

## <基本理念>

私たちはますます深刻化する地球温暖化への対応が人類共通の重要な課題と認識し、環境への負荷低減に継続的に取り組み、環境との調和を図り積極的に環境保全活動を推進します。

## <活動方針>

この理念のもと、当社製品の設計・開発、製造・販売及び付帯サービスの事業活動において環境負荷の低減を図るために、環境目標・活動計画を定め、定期的な見直し及び継続的な改善をするシステムを構築し、全従業員が自主的かつ積極的に環境保全活動を推進します。

1. 5S活動・作業改善提案の推進により生産性を向上しエネルギー使用量(電力、燃料)の低減を図り、生産高あたりの温暖化ガス排出量の削減に努めます。
2. 環境保全意識の高揚に努め水使用量、紙使用量の削減に努めます。
3. グリーン購入を推進し、環境への負荷低減に努めます。
4. 廃棄物の3R(減量、再使用、再生利用)に取り組みます。
5. 環境関連の法や条例を遵守します。
6. 環境方針・環境目標・活動計画を全従業員に周知し、環境保全意識の向上に努めます。
7. 環境保全への取り組みを環境活動レポートとして取りまとめ公表します。

2023年4月1日  
株式会社ユタカ製作所  
代表取締役社長 松本 慶一

## 2. 事業活動の規模

### (1) 事業所および代表者名

株式会社 ユタカ製作所  
代表取締役社長 松本 慶一

### (2) 所在地

本社 〒370-0883 群馬県高崎市剣崎町 68 番地  
TEL : 027-343-7522 FAX : 027-343-7527

東京営業部 〒143-0016 東京都大田区大森北 1 丁目 5 番 1 号  
TEL : 03-5763-9091 FAX : 03-5763-9094

大阪営業所 〒530-0012 大阪府大阪市北区芝田 2 丁目 8 番 10 号  
TEL : 06-6373-3873 FAX : 06-6377-2285

### (3) 環境保全関係の責任者および担当者連絡先

代表責任者	代表取締役社長	松本 慶一
環境管理責任者	EA21 事務局	梅田 裕輔
担当	EA21 事務局	梅田 裕輔

TEL : 027-343-7522(代表) FAX : 027-343-7527

### (4) 事業の内容

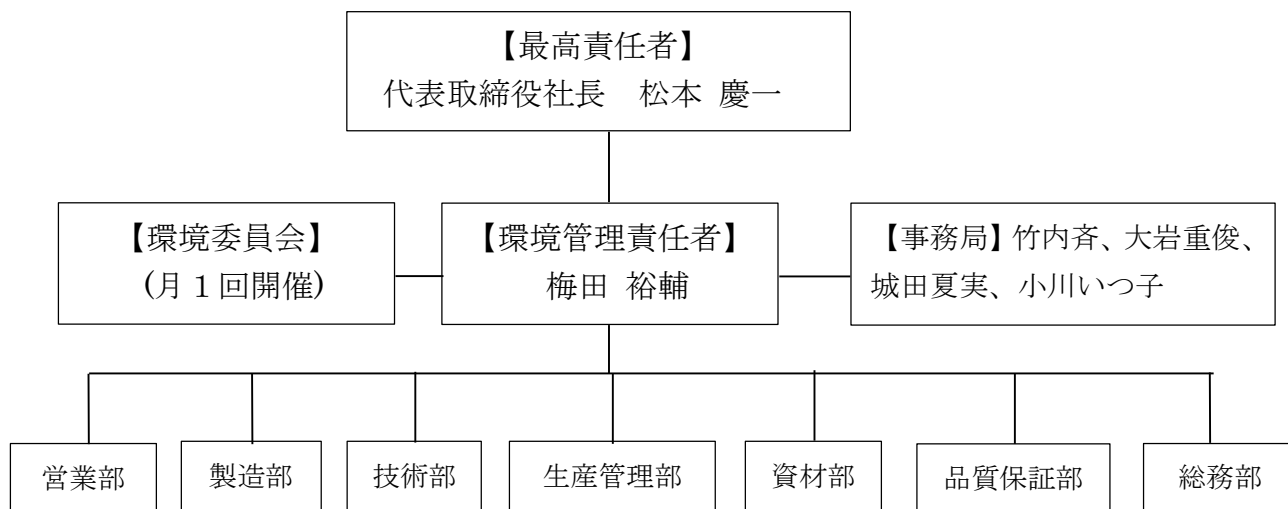
鉄道車両用電気連結器及び電気コネクタの設計・開発、製造及び付帯サービス  
(点検・修理及び引取り修理)

### (5) 事業規模

従業員数	182 人 (派遣社員および役員を含む)
延床面積	
本社	7,356.4 m <sup>2</sup>
東京営業部	242.6 m <sup>2</sup>
大阪営業所	161.7 m <sup>2</sup>

### 3. EA21 推進体制

2023 年 4 月 1 日



職名	役割
最高責任者 代表取締役社長 松本 慶一	① 環境管理責任者をはじめ、必要な責任者を任命する。該当責任者には、現在の責務に関わりなく、兼任で責任と権限を明示する。 ② エコアクション 21 の構築・運用・維持に必要な経営資源(人材・資金・機器・設備・技術・技能を含む)を準備する。 ③ 環境方針を制定する。 ④ エコアクション 21 の構築・運用に関する情報を収集し、環境方針・環境目標をはじめシステム全体の見直しを行い、必要に応じ改訂を指示する。
環境管理責任者 梅田 裕輔	① エコアクション 21 に関する経営諸資源の合理的・効果的な運用を図り、目的を達成するために環境委員会を運営する。 ② エコアクション 21 の構築と運用を円滑に行い、最高責任者による見直しのための情報として、構築・運用に関する情報を最高責任者に提供する。
事務局 竹内 斉、大岩重俊 城田夏実、小川いつ子	① 事務局として、環境管理責任者を補佐し、エコアクション 21 に関する実務全般を所管する。
環境委員会	① 最高責任者・環境管理責任者・事務局・部門長で構成し、月 1 回環境管理責任者が招集する。環境目標の設定、環境活動計画の策定及び進捗管理について協議する。環境管理責任者が必要と認めた者は出席することができる。

## 4. 環境目標とその実績

基準値として直近2年間（2020年4月～2021年3月）の平均環境負荷実績を把握するとともに、今年度および2024年度までの中期の目標を以下のとおり定め、2022年4月1日より活動を開始しました。

環境目標	基準値 2020～ 2021年 度平均	2022年度目標		中期 2024年度 目標	環境活動計画 実施事項
		目標	実績		
生産実績百万円当たりのCO2排出量の削減 【kg/百万円】	126 kg	基準値比 -1% 124.7kg	基準値比 +11.1% 140kg	2020～ 2021年 度平均比 -3%	①空調温度適正化・表示 ②照明不要時消灯の推進 ③エアコン清掃の実施 ④エコドライブ推進 ⑤社用車の点検・整備 ⑥業務改善活動等の生産効率向上への取組 ⑦再発防止対策等の不良削減の取組 ⑧適正な設計による手戻りの削減
生産実績百万円当たりの廃棄物排出量の削減 【kg/百万円】	26.1kg	基準値比 -1% 25.8kg	基準値比 -10.3% 23.4 kg	2020～ 2021年 度平均比 -3%	①分別ルール of 徹底 ②廃棄物置場の整備 ③産廃業者との契約書の確認 ④マニフェスト管理の徹底 ⑤紙使用量の削減
従業員1人当たりの水資源投入量の削減 【m <sup>3</sup> /1人】	9.9 m <sup>3</sup>	基準値比 -1% 9.8 m <sup>3</sup>	基準値比 +7.1% 10.6 m <sup>3</sup>	2020～ 2021年 度平均比 -3%	①節水表示(手洗い場・トイレ) ②水道関連設備の検討 ③トイレの節水
化学物質の管理の徹底	—	管理状況の整理	—	管理の徹底	①使用量の把握 ②保管場所の整理 ③SDSの整理 ④化学物質取扱いに関する教育

環境目標	基準値 2020～ 2021年 度平均	2022年度目標		中期 2024年度 目標	環境活動計画 実施事項
		目標	実績		
リサイクルを 考えた設計 (新設計品)	—	リサイクル 可能な材料 使用率 80%以上	該当無し		
グリーン調達 推進	—	管理の徹底	—	管理の徹底	①使用禁止物質の抽出 ②使用禁止物質不使用証明書 提出願い発行 ③使用禁止物質不使用証明書 提出願い回収 ④使用禁止物質の含有量把握
グリーン購入 推進 (グリーン 商品の購入 比率の向上)	59.5%	基準値と同 等以上	59.5%	基準値と 同等以上	① グリーン商品購入検討 ② グリーン購入比率調査

※購入電力（アーバンエナジー社）の排出係数は排出係数 0.458 kg Co2/kwh を使用。（2018年12月より電力供給会社変更）

（過去の取組実績）過年度の取組実績は下記の通りです。

環境目標	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
年間CO2排出量【t】	432.4	448.9	360.2	370.6	339.0	336.8
生産実績百万円当たりのCO2排出量【kg/ 百万円】	156	146	113	124	128	140
年間廃棄物排出量【t】	65.2	71.8	66.1	81.4	65.3	56.4
生産実績百万円当たりの廃棄物排出量【kg /百万円】	23.3	23.4	20.7	27.3	24.7	23.4
従業員1人当たりの水資源投入量【m <sup>3</sup> /1 人】	9.2	10.3	9.4	9.9	10.2	10.6
新製品のリサイクル可能部品重量割合	該当無し	90.1%	72.4%	該当無し	該当無し	該当無し
グリーン商品の購入比率	53%	43%	48%	56%	63%	59.5%

## 5. 環境経営計画の取組みと評価

### (1) 環境経営計画の達成および取組み状況

経営計画・達成状況	環境経営計画の取組み状況
<p>(生産実績百万円当たりの二酸化炭素排出量の削減)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標 2020～2021 年度平均比 1%削減</li> <li>・ 目標達成状況 未達 11.1%増加</li> </ul>	<p>電気の使用量は基準年度比 4.6%削減した。2022 年 10 月には工場の屋根に自家消費型太陽光パネルを設置。半年間で約 57,384kwh 発電し使用料の削減に寄与した。</p> <p>ガソリンは、社用車使用頻度の減少もあり 22.4%削減した。それらの結果、二酸化炭素排出量全体で基準年度比 5.1%減少した。</p> <p>しかし、生産実績は基準年度比で 9.1%と大きく減少したため、生産実績百万円当たりの二酸化炭素排出量は 140 kg、基準年度比で 11.1%の増加となった。</p>
<p>(生産実績百万円当たりの廃棄物排出量の削減)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標 2020～2021 年度平均比 1%削減</li> <li>・ 目標達成状況 達成 10.3%減少</li> </ul>	<p>生産実績百万円当たりの廃棄物排出量は 23.4kg となり、基準年度平均比で 10.3%減少した。</p> <p>廃棄物総廃棄量は基準年度比で 23.1%減少している。</p> <p>廃棄物の種類別にみると、基準年度比で減少したものは産業廃棄物 25.0%、リサイクル紙 27.8%、有価物 24.5%などであった。</p>
<p>(水資源投入量の削減)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標 2020～2021 年度平均比 1%削減</li> <li>・ 目標達成状況 未達 7.1%増加</li> </ul>	<p>従業員一人当たりの水の使用量は年間 10.6 m<sup>3</sup>となり、基準年度平均比で 7.1%の増加となった。</p> <p>排水管の詰まり予防策として、トイレの自動弁を調整し流量を多くしている事が影響していると考えられる。</p>



経営計画・達成状況	環境経営計画の取組み状況
(化学物質の管理徹底) ・ 目標 管理状況の整理 ・ 目標達成状況 達成	化学物質の管理については、PRTR 対象物質使用量の把握、保管状況の管理、SDS の整備などに取り組んでいる。 当社の PRTR 対象物質購入量は、年間で 45.4 kg となり、前期 52.4 kg よりも購入量は減少した。なお主な化学物質はトルエン、キシレン、エチルベンゼンです。 引き続き使用量の把握と SDS 管理等、適正な管理を行います。
(リサイクルを考えた設計) ・ 目標 新設計品のリサイクル可能な材料使用率 80%以上 (重量比) ・ 目標達成状況 該当無し	今期は対象の新設計製品はない。 引き続き設計に当たりリサイクル可能な材料を使用するよう努めます。
(グリーン調達推進) ・ 目標 管理状況の整理 ・ 目標達成状況 達成	材料に含まれる使用制限物質の含有率把握している。今後も材料に含まれる使用制限物質について継続的に把握します。
(グリーン購入推進) ・ 目標 グリーン商品購入比率 2020～2021 年度平均 比同等以上 59.5% ・ 目標達成状況 達成 59.5%	グリーン商品購入比率は 59.5% となり計画同等の数値となった。 今後も文具や消耗品の購入において、グリーン商品を購入するよう努めていき、グリーン商品購入比率の向上を図ります。

## (2) 具体的な環境活動例

### ○二酸化炭素排出量削減の取組み



環境方針を掲示し、従業員に周知しています

照明のこまめな節電を呼びかけました。エアコンの温度管理方法についても掲示しました



本社建物の照明は全てLEDに変更し、省エネ化を図っています。

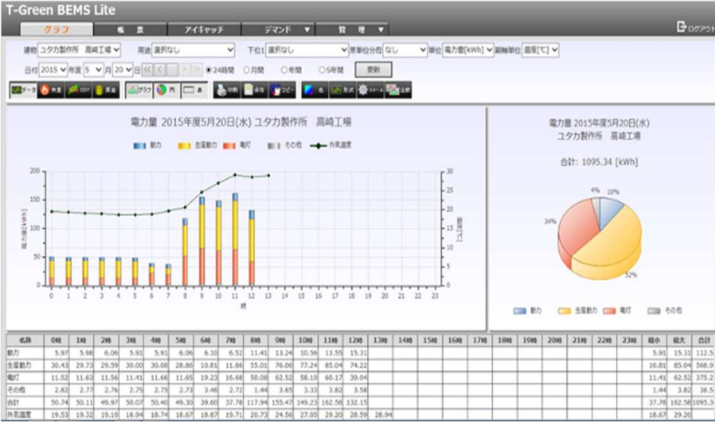
○二酸化炭素排出量削減の取組み（続き）



太陽光発電システムのパネル清掃も実施し、発電効率の維持に努めました。



駐車場の照明にソーラー街路灯を採用。



電力監視システムの導入により、社内の消費電力を監視、見える化し、社内啓蒙・省エネ改善を行いました。



2号棟屋根に自家消費型の太陽光発電システム(153.66kw)を設置。工場で使用する電力の一部を賄っています。

○二酸化炭素排出量削減の取組み（続き）



個人認識システムの活用により、不要印刷を削減。

○廃棄物排出量削減の取組み

切粉の廃棄物保管庫を整備し、材料混合切粉の適切な分別を行っています。



○水資源投入量削減の取組み



節水を呼びかけるポスターを作成し、従業員に周知しています。

トイレに擬音装置を設置し、水を流す回数削減により節水を図っています。



## 6. 社会貢献

### ○企業参加の森林づくり

群馬県が企画している「企業参加の森林づくり」に参加し、二酸化炭素吸収、環境貢献、生物多様性保全に取り組んでいます。今期も群馬県高崎市にある観音山キャンプパークジョイナスにおいて活動を2回実施し、緑地帯の整備、キャンプ場の補修等を行いました。

作業後の昼食を皆で食べると美味しいのですが、弁当をもって帰ってもらう等、コロナ対策にも配慮した活動を心掛けています。

### ○ キャンプ場の区画整備を行いました。

皆で力を合わせて重い資材を運んだり、穴を掘ったり、いい汗を流しました。



### ○緑の募金

緑化の啓発、環境緑化、緑の少年団の育成、森林整備、緑化運動の推進を目的とした「緑の募金」に参加しています。本年度も、社員と会社からのものを合わせ、募金を行いました。



## 7. 2023 年度の取組み内容

当社における 2021~2022 年度(2021/4/1~2023/3/31)の環境負荷実績を把握し、2023 年度の目標を以下のとおり定め、2023 年 4 月 1 日より活動を開始しました。

環境目標	基準値 2021~2022 年度 実績平均値	2023 年度目標	環境経営計画実施事項
生産実績百万円当たりの Co2 排出量の削減 【kg/百万円】	134 kg	左記基準比 1%削減 132.6kg	①空調温度適正化・表示 ② 照明不要時の OFF の推進 ③エアコン清掃の実施 ④エコドライブ推進 ⑤社用車の点検・整備 ⑥提案活動等の生産効率向上への取組 ⑦再発防止対策等の不良削減の取組 ⑧適正な設計による手戻りの削減
生産実績百万円当たりの廃棄物排出量の削減 【kg/百万円】	24.1 kg	左記基準比 1%削減 23.8kg	①分別ルールの徹底 ②廃棄物置場の整備 ③産廃業者との契約書の確認 ④マニフェスト管理の徹底 ⑤紙使用量の削減
従業員 1 人当たりの水資源投入量の削減 【m <sup>3</sup> /1 人】	10.2 m <sup>3</sup>	左記基準比 1%削減 10.0 m <sup>3</sup>	①節水表示(手洗い場・トイレ) ②水道関連設備の検討 ③トイレの節水
化学物質の管理の徹底	—	管理状況の整理	①使用量の把握 ②保管場所の整理 ③SDS の整理 ④化学物質取扱いに関する教育

リサイクルを考えた設計(新設計品)	—	リサイクル可能な材料の使用率(製品重量の 80%以上)	①使用材料の材質確認 ②リサイクル可能部品重量の把握
グリーン調達推進	—	管理の徹底	①使用禁止物質の抽出 ②使用禁止物質不使用証明書提出 ③使用禁止物質不使用証明書提出 ④使用禁止物質の含有量把握
グリーン購入推進 (グリーン商品の購入比率の向上)	61.0%	左記基準と同等以上 61.0%	①グリーン商品購入検討 ②グリーン購入比率調査

## 8. 環境関連法規制の遵守

### (1) 当社に適用となる主な環境関連法規

法規制等の名称	遵守事項	遵守状況
水質汚濁防止法	<ul style="list-style-type: none"> <li>油などの流出事故無し</li> <li>廃油などの適正な排出</li> </ul>	遵法
騒音規制法	<ul style="list-style-type: none"> <li>計測証明書の手入</li> <li>高崎市への特定施設の種類ごとの届出および適正管理</li> </ul>	遵法
振動規制法	<ul style="list-style-type: none"> <li>計測証明書の手入</li> <li>高崎市への特定施設の種類ごとの届出および適正管理</li> </ul>	遵法
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> <li>マニフェストの管理と高崎市への適正な報告</li> <li>産業廃棄物保管場所の整備</li> <li>産業廃棄物取扱業者との契約締結</li> </ul>	遵法
P R T R 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象化学物質の把握</li> <li>年間使用量の適正な届出の実施</li> </ul>	遵法

労働安全衛生法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全衛生委員会の開催</li> <li>・特定健診断、定期健康診断など各種健康診断の実施</li> <li>・年2回の作業環境測定の実施</li> </ul>	遵法
消防法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防署への危険物貯蔵取扱の届出</li> <li>・消防用設備の届出と管理</li> <li>・消防計画の作成および届出</li> <li>・年2回 消防訓練の実施</li> </ul>	遵法
2050年に向けた「ぐんま5つのゼロ宣言」実現条例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイドリングストップの周知</li> </ul>	遵法
高崎市公害防止条例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適用される新たな規制がないかを監視</li> </ul>	遵法
工場立地法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑地率や建物などの届出の実施</li> </ul>	遵法
フロン排出抑制法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1種特定製品の適正な整備、簡易点検、定期点検、その記録の保管</li> <li>・第1種特定製品の適正な廃棄</li> </ul>	遵法
グリーン購入法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文具・工具などの購入にあたり、グリーン商品の購入に努める</li> </ul>	遵法

(2) 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

2023年4月11日の環境関連法規遵守状況の確認において、環境関連法規への違反はありません。また、関係機関からの違反等の指摘はなく、訴訟等もありません。



## 9. 代表者による全体評価と見直しの結果

2023年度は2022年度より更に約2.1%売上が下がる見込みです。車両生産計画の下降局面とコロナ禍の影響による設備投資の抑制が重なり、当社への影響も懸念されます。このような厳しい環境となりますが、過去2年間の平均を基準値とし、不良品などのムダを発生させない様に留意するとともに、日頃の地道な努力を積み上げることで環境負荷の低減を積極的に推進してまいります。

また、昨年度後半に新たな環境対策として、本社建物の屋根に自家消費型の太陽光発電システムを導入しました。今年は1年を通して発電することにより、さらなるCO<sub>2</sub>排出量の削減に繋がると考えております。

2023年5月1日

株式会社ユタカ製作所

代表取締役社長 松本 慶一